

第26回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成 25 年 12 月

応募者名:北海道 空知総合振興局 札幌建設管理部

事業の名称:JR函館本線(野幌駅付近)連続立体交差事業

実施都市名:江別市

事業目的

江別市は、札幌都心部から約20kmに位置し、国道12号線と函館本線の鉄道駅を中心に発展してきました。

中でも野幌駅の周辺では、列車本数の増加や高速化により札幌駅まで約15分と いう便利な立地条件から、マンションや商業・業務施設の集積が活発化してきており、近年、鉄道の南北市街地を往来する交通が増加し、踏切での交通渋滞や事故の危険性が増大しています。

このため、連続立体交差事業を行い、鉄道を高架化し、踏切を除却することにより、安全で円滑な交通を確保するものです。

事業概要

事業名称: JR函館本線(野幌駅付近)連続立体交差事業

路線名: 道道江別恵庭線、道道札幌北広島環状線

事業箇所: 北海道江別市(野幌松並町～野幌駅～高砂町)

事業延長: $L=2,363\text{m}$ (うち橋梁 $L=1,500\text{m}$)

幅員: $W=11.0\text{m}$ (橋梁部 $W=20.0\text{m}$)

事業費: 14,443百万円

事業実施期間: 平成18年～平成24年

交差道路: 8丁目通及び旭通(各、高架との交差部)

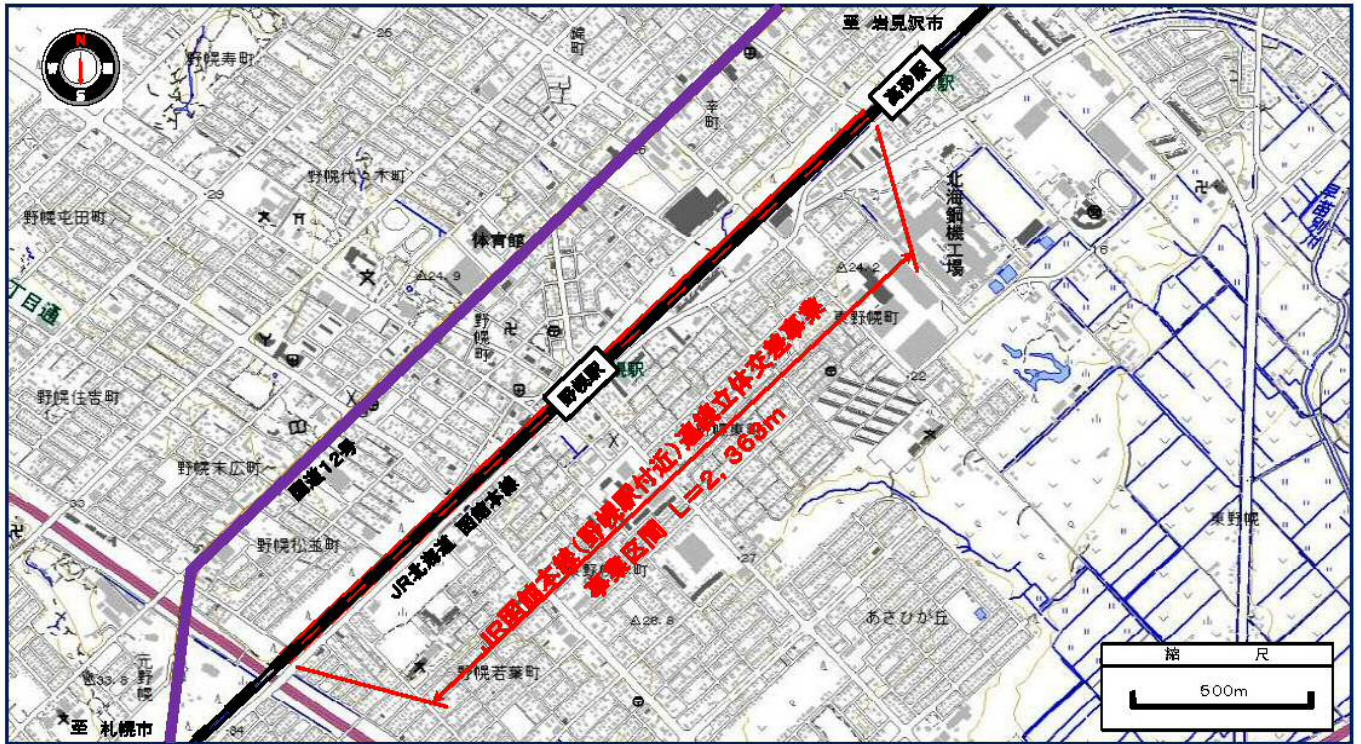
中原通及び高砂地下歩道(各、鉄西線～鉄東線)

高架構造形式: (基本構造)ビームスラブ式ラーメン鉄筋コンクリート

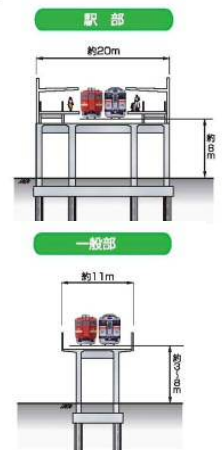
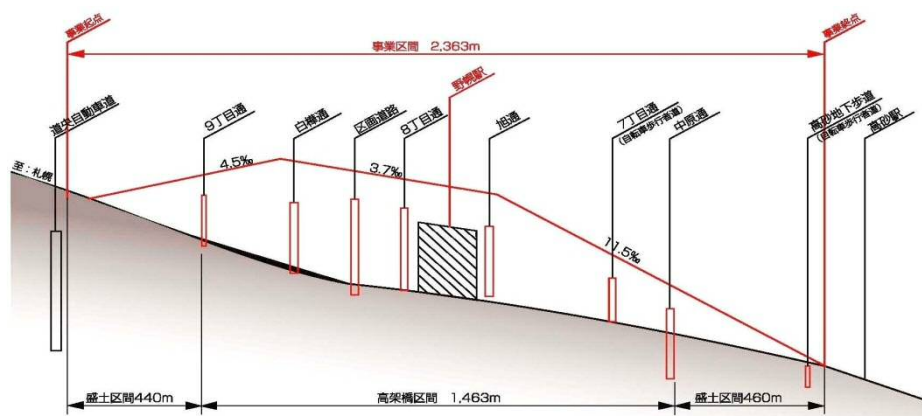
駅部構造: 線数～2線、ホーム～2面

(エレベーター・エスカレーターを設置)

事業位置図



全体図(平面図・側面図・横断面図)



函館本線の整備効果アピール資料

当該事業による整備により、危険な踏切の廃止による道路と鉄道の安全性が向上し、交通渋滞の解消、鉄道で隔てられていた市街地が一体化され、高架下空間の有効利用と新たな交差道路の整備により利便性も向上します。

○事業概要

事業名: JR函館本線(野幌駅付近)連続立体交差事業
路線名: 道道江別恵庭線、野幌(停)線、札幌北広島環状線
事業箇所: 北海道江別市(野幌松並町～野幌駅～高砂町)
事業延長: L=2,363m(うち橋梁L=1500m)
幅員: W=11.0m(橋梁部W=20.0m)
総事業費: 144億円
事業期間: 平成18年度～平成24年度



○「整備効果」

- ・鉄道高架化による道路・鉄道の安全性の向上。
- ・危険な踏切の廃止による交通渋滞の解消。
- ・江別市の中心市街地の一体化・自由往来可能。

○「その他の事業効果」

- ・駅南北一体利用、高架下空間の有効利用による利便性の向上。
- ・南北市街地を結ぶ新たな道路の整備により街の発展を推進。

野幌駅開業



踏切除去



中原通



高砂地下歩道

高架下空間利用



野幌駅高架下駐輪場

事業前写真

平成17年4月撮影



鉄道の南北市街地を往来する交通が増加し、踏切での交通渋滞や事故の危険性が増大していました。

平成15年4月撮影



鉄道を高架化し、踏切を除却することにより、安全で円滑な交通確保が望まれていました。

事業後写真

平成25年4月撮影



危険な踏切が廃止され、踏切による交通渋滞が解消されました。

平成25年4月撮影



鉄道で隔てられていた市街地が一体化され、駅南北一体利用、高架下空間の有効利用が可能となり利便性が向上しました。